



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

98.12.2 No.4887

デタラメな理由の 配転をやめろ！ 運転士に戻せ！

— 千葉支社交渉 (11/27) —

千葉支社は、一二月一日から実施した無人駅の駅業務委託にともない、湖北駅所属で木下駅の特別改札を行なっていた勤務千葉二名を含む三名について、検修職場への異動を行なってきた。

異動の内容は次のとおり。

●習志野電車区—勤務千葉一名
●幕張電車区—木更津支区

—勤務千葉一名
●幕張電車区—国 労一名

勤務千葉二名のうち一名は六年の人生センター設置から二年間もの間運転士を外されて「塩漬け」され、あと一名も五六予科生としてすでに運転士の資格を保有しているにもかかわらず運転士への登用を拒否され続け、売店・駅をたらい回しされ、今回も運転士への復帰・登用を拒否されて検修職場への配属となったものだ。

勤務千葉は、今回の異動を中止し、運転士への復帰・登用など本人の希望する職場への配置を求めて十一月二十七日、千葉支社において団体交渉を行った。

会社は約束守れ

勤務千葉からの切実な要求に対して千葉支社は、「当時の状況を憶測すれば・・・」などと言って、運転士の活用策としてローテーションで営業に行かされたこと、運転士の号俸が外れるまでには帰することを考えているという約束事があることを全く無視し、自らの責任を放棄するという態度で臨んできた。

しかも、「営業へ行つて苦勞してきたことは会社としても認識しているが、その苦勞してきたことと異動については一致しない問題」と開き直るなど、勤務千葉を排除するためには道理もへちまもないということをおからさまにしてきた。

早く覚えられる？

また、今回の異動では、成田在住の組合員を木更津支区に異動するという、通勤事情を全く無視した異動が行なわれた。

通勤距離・時間でいえば、幕張電車区の方が近いにもかかわらず「幕張は車種も多く大変なので、木更津ならDCとDLだけなので早く覚えられ」と、とんでもないことを言いだす始末だ。

これまでも、通勤距離・時間

の緩和を理由の最初にあげて不当配転の逃げ道にしていたが、今回は木更津支区の前幕張電車区があるのにそれをも無視して異動したのだ。

しかも異動した先の木更津では、派出検査がほとんど全ての車種を扱うことすら把握しないまま「早く覚えられ」という全くデタラメな理由をこじつけて、これが異動の理由だというのだ。

来春にむけ新たな闘いへ

— 第2回支部代表者会議 (11/27) —

勤務千葉は、十一月二十七日、動力車会館において、第二回支部代表者会議を開催し、十一・八労働者集会をはじめとした秋季闘争の総括を行なうとともに、一〇四七名闘争を中心とした年末から来春に向けた当面する方針を確認した。

新たな闘いのステージに起とう

十一・八労働者集会は、労働運動の新たな発展に向けた大きな可能性を秘めた闘いとして開催された。関西生コン支部、港合同、勤務千葉という三労組の陣形は、今日の大失業と戦争の時代という情勢が作りだしたものであり、この流れは誰も押し止めることはできない。

勤務千葉も、十一・八集会の画期的な成功をうけ、新たな闘いのステージに踏み出そう。

冗談じゃない。強制配転の問題は、会社が団交の席で回答を繰り返せば繰り返すほどそのデタラメさ、矛盾が大きくなり答えられないという状況に陥っていたが、今回の団交はそのさいたるもだ。

会社は、デタラメな理由を撤回し、約束どおり強制配転者を運転士に復帰・登用しろ！
強制配転粉砕！JR総連解体・組織拡大へ闘いぬこう！

分割・民営化の矛盾が噴出

JR貨物は、十一月二十六日、年末手当について二・一カ月という超低額・格差回答を行なってきた。これにより東日本(三・一五カ月)との格差は一カ月を超えるなど、JR貨物の経営破綻・分割・民営化政策の矛盾が、貨物問題というかたちで集中的に噴出してきている。

勤務千葉は、一六日に格差回答阻止にむけストの事前通知を行い、回答前日の二五日には新小岩において「年末手当要求緊急集会」を行うなど、貨物・旅客の仲間が団結を守りぬくことを誓いあつてきた。

われわれは、JR体制打倒！JR総連—日貨労働体、組織拡大こそ勝利の道であることを改めて確認し闘いぬかなければならない。

当面する取組み

一方、政府・自民党は、十一月二十七日からの臨時国会目前にして小澤・自由党との連立に合意した。この合意の最大の問題は、新安保ガイドライン—有事立法制定の問題であり、来年の通常国会で一気に成立を強行しようというものだ。

しかし、資本主義体制が崩壊の危機に瀕している中で、小澤・自由党のような極右反動と再度手を組む以外に道がない支配体制の側の弱点を認識し、新安保ガイドライン—有事立法制定阻止—百万人署名運動の成功に向け、闘いを強化しよう。

(1)冬季物販の目標達成に全力を
一〇四七闘争が正念場を迎えている状況の中で、長期不況の波を乗り越えて展開されている勤務千葉の物販活動は、全国の労働者に闘う勇気と希望を与え、重要な取組みとなっている。

組織内目標達成に、組合員一人一人が全力で取組もう。

(2)仕業別実態調査の取組み

乗務員分科定期委員会での決定をうけ、ダイ改以降直ちに仕業別実態調査の取り組みを開始し、通年闘争として労働条件改善に向け取り組むこととする。

(3)九九年勤務千葉団結旗開き
とき 一月九日 (土)

ところ 労働者福祉センター
ところ 労働者福祉センター

(4)全支部活動者研修会
とき 一月二四日 (日)

二五日 (月)